

2010(仏暦2553)年8月号(第56号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

「きく」ということ

■仏事のイロハ

浄土真宗のお墓の建て方は？

■本願寺の本

「仏事の小箱」菅純和 著

■お知らせ、編集後記

Photo

万行寺の佐久市下平尾は、平根地区とい
って「平根の桃」が有名です。桃源郷とい
われ、春は花見も訪れる所です。高地
で育つため、出荷は少し遅く、これから最
盛期です。今年は、天候不順で全体に果
実は遅れているようです。

住職 法話

「きく」と「うらなう」

「聞く」ということは人間にとつて大切な行為です。しかし、「私はこう思う」と意見を主張したり、「私はこうしたい」と欲することに忙しくて、「聞く」という大切な行為を見失いがちではないでしょうか。

親鸞聖人は『一念多念文意』に、無量寿經の句をあげて次のように解説をされます。

「聞其名号」といふは、本願の名号をきくとのたまへるなり。きくといふは、本願をききて疑ふところなきを「聞」といふなり。またきくといふは、信心をあらはす御のりなり。

これを現代語訳にします。

「聞其名号」というのは、本願の名号を聞くと仰せになつているのである。聞くというのは、如来の本願を聞いて、疑う心がないのを「聞」というのである。また聞くというのには、信心をお示しになる言葉である。

ところで、古来より、お寺には山号というものがありません。本山の西本願寺にも「龍谷山」という山号がありません。万行寺も佐久へ拠点を移したのを機に、「聞宝山」という山号を定めさせていた六丁に「聞了」という方が、「宝永六年」に万行寺を始められたことに由来しています。

しかし、これにはもう一つの意味が含まれています。浄土真宗で最も重要なこと、法を聞くと「聞法」にもかけています。「法」は仏の教えということで、仏さまの教えを聞くということですが、それは、一般に「聴聞」するということ表現をします。どちらの字も「きく」ことを繰り返しているわけですが、先の「聴く」というのは、ラジオを聴くとか講義を聴くというように、「耳を傾け注意して聞き取る」と辞書にあります。そして、「聞く」ということは、「耳で音や声を感じとる。たずねる。従う」と辞書にあります。

このように、親鸞聖人が仰つた「聞く」ということ、つまり「聴聞」するということとは、ご講師から仏教のお話を知識として「聴く」ことを通して、如来の本當の願い(本願)を疑いなく感じとり「聞く」という姿勢が浄土真宗の信心であるとお示しになります。

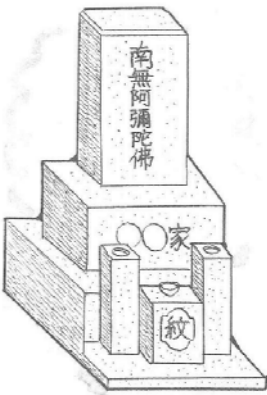
自分の意見ばかり主張する耳すら傾けない人も見受けられます。仏教に限らず、物事をただ知識として「聴く」のではなく、私のものとして感じとり「聞く」という姿勢がどこの社会にも必要だと感じます。



仏事のイロハ

浄土真宗のお墓の建て方は？

ふだんお寺に顔を見せたことのない方から突然「お墓を建てたいので、お性根を入れて下さい」と、電話で依頼されました。さっそく墓地へ出かけていくと、これがやたらと凝っていて、中心となる石碑の横には石塔が建ち、手前横には観音像、その隣の法名を記した石板には「霊標」と刻まれ、おまけに石碑の向きが入口から見て真横になっています。



「よくもまあ、これだけこだわった墓を造ったものだ」とあきれると同時に、何だか心寂しくなってしまうました。

そこで、浄土真宗門徒がお墓を建てる時の注意点をいくつか述べてみましょう。

① 建てようと思ったら、まずお寺に相談すること—教えにそぐわないお墓や、余計なもの造っては台なしです。それに、信頼できる石材店を紹介していただけま

す。

② 墓相に惑わされずに—お墓の向きによって幸不幸が生じるわけではありません。また場所も同様です。向きや場所にこだわると、先の例のように石碑の側面を拝する位置になつたりしかね

ず、いかにも不自然です。

③ 墓石の形もこだわらずに—形によって良し悪しがあるわけではありません。石碑の上面を三角形にしたり、屋根や宝珠をつける必要もありません。

④ 石碑(軸石)の正面には「南無阿彌陀仏」の名号を刻みましよう—ご先祖を偲ぶ上でも、人生無常の理をかみしめる上でも、つねに私の依り所となり、礼拝の対象となるのは阿彌陀如来だからです。この場合、家名は台石に刻めばよいでしょう。また、名号以外の場合

は、携帯用のご本尊を安置しお参り下さい。

⑤ 観音像、地藏像、宝塔などは建てない—帰依する仏さまは阿彌陀如来—仏だからです。

⑥ 「吉日」の文字は刻まない—日の吉凶や建てる時期にこだわられません。

⑦ 「霊標」とせず「法名碑」とする—法名を記す石板は「霊標」とは言わない。

このほか「お性根を入れる」のではなく「建碑式(法要)」と言います。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より

「住職談」以前は、正面の石碑には、「先祖代々」とか「〇〇家」といった墓が使われてきましたが、墓でもお参りをするということ考ますと、「南無阿彌陀仏」と刻むのが本来だということです。石材店の方も、最近は浄土真宗の場合はこちらにならっているようです。

～本願寺の本～

「仏事の小箱」菅純和 著



大阪市に本願寺の別院で、津村別院があります。そこで、毎月『御堂さん』という月刊誌を発行しています。著者である編集長が載せていたエッセーがまとめられ本として出版されています。

「仏事の小箱」というように、仏事に関することを分かり易くお話し下さっています。仏教の「ぶ」の字もわからない方にも読みやすくなっています。

「先祖の祟りはあるのか」「お経はだれのため?」「お仏壇の水やお茶」「門徒は修行しなくていいの?」とか、「お布施の相場」ということにもふれてお話をされています。定価500円(税込)です。

月刊誌『御堂さん』も分かり易くてお勧めです。どちらも下記編集部のみで受付。

【御堂さん編集部】 <http://www.midosan.jp/>

〒541-0053 大阪府中央区本町4-1-3

本願寺津村別院内

TEL 06-6261-6796 / FAX 06-6261-6828

—お知らせ—

「万行寺門信徒会」より、門信徒の皆様にご協力をお願いをさせていただきました。ご協力有難うございました。御礼申し上げます。

また、今年度中で受け付けをしておりますので、まだという方におかれましては、何卒、ご理解とご協力のほど重ねてお願いを申し上げます。

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。◆また、特に今年は何年にもない猛暑続きで、これ程に影を及ぼして、今年は、サンマが不漁だそうです。旬だとはいえ、高値では食べてみようという気にはなりません。◆こう異常気象が続くと、旬も変わり日本の四季そのものも無くなっていくのでしょうか。心配になります。◆ある方が、環境問題で地球が危ないと叫んでいるが、地球はそんなに柔じゃなく、人間を含めた地球に住んでいる生きものが危ないんだということを仰ってました。本当にそうだと思います。